

授業科目 家族看護学

【担当教員名】 松井 由美子、西川 薫、手島 美子、 袖山 悦子、下山 博子		対象学年	2	対象学科	看護
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	○	○	
【概要・一般目標：G10】 本科目では、家族看護学の主な理論を理解し、家族アセスメントの方法を学ぶ。事例を用いて、家族の問題を明確化する過程を理解し、家族を支援する看護師の役割を知る。各発達に応じた家族援助のあり方も考察する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 現代社会の家族の状況や家族看護学の経緯について理解し、家族看護学に興味をもてる。 2. 家族看護学に活用されている諸理論について説明できる。 3. 家族の機能・役割について説明できる。 4. 家族アセスメント・モデルの概要について説明できる。 5. 家族アセスメント・モデルを使用し事例の家族をアセスメントできる。 6. 発達段階に応じた家族援助の方法を考察する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	現代社会における家族の現状と家族看護学			1、3	講義、担当：松井 由美子
2	家族看護学に活用されている諸理論、家族アセスメントの方法			2～5	講義・演習、担当：松井 由美子
3	母性看護学領域の家族援助			5、6	講義、担当：下山 博子
4	小児看護学領域の家族援助			5、6	講義、担当：松井 由美子
5	精神看護学領域の家族援助			5、6	講義、担当：西川 薫
6	成人看護学領域の家族援助			5、6	講義、担当：手島 美子
7	老年看護学領域の家族援助			5、6	講義、担当：袖山 悦子
8	まとめ			1～6	演習・講義、担当：松井 由美子
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		家族看護学	小島操子監修、星直子編集	中央法規	2007・2,600円＋税
参考書		家族看護学第4版 理論と実践	鈴木和子、渡辺裕子著	日本看護協会出版会	2012・3,200円＋税
その他の資料					
【評価方法】 筆記試験(80%程度)レポート(20%程度)			【履修上の留意点】		